

第45回「日本ITU協会賞」受賞

2017年5月17日の「第49回世界情報社会・電気通信日のつどい」において、無線アクセス開発部の安部田 貞行氏とR&D戦略部の住田 正臣氏が、日本ITU協会賞「功績賞」、無線アクセス開発部のウメシュ アニール氏と先進技術研究所 5G推進室の武田 和晃氏、経営企画部 企画調整室の大槻 芽美子氏が日本ITU協会賞「奨励賞」を受賞しました。功績賞は、世界情報社会サミットにおける基本宣言および行動計画の実現および国際標準化、国際協力に関するITUなどの活動または我が国のITUなどに関連する諸活動に貢献し、その他情報通信および放送の発展に寄与し、その功績が著しい者に贈られます。また、奨励賞は、功績賞に該当する諸活動にすでに参加し、今後これらの領域において継続して寄与することが期待される者に贈られます。

安部田氏は、3GPP (3rd Generation Partnership Project) やARIB (Association of Radio Industries and Business) において、LTE/LTE-Advanced方式における議論のラポータ*1として標準化全体を取りまとめ、また副議長として議論の推進、仕様の完成に大きく貢献をしました。さらにARIBモバイルパートナーシップの部会長として標準化推進に貢献した功績が認められ、功績賞を受賞しました。

住田氏は、高圧縮音声のATM (Asynchronous Transfer Mode)*2伝送標準化によりIMT-2000 (3G)の発展やモバイルデータ通信端末の世界標準化の推進、3GPP/oneM2Mの運営、IMT-Advanced, IMT-2020 (5G), IoTの標準化を推進した貢献が認められ、

功績賞を受賞しました。

ウメシュ氏は、HSUPA (High Speed Uplink Packet Access), LTE/LTE-Advanced, ならびに5Gの標準化において、無線I/Fプロトコルと無線ネットワークアーキテクチャの技術議論を主導して仕様策定を行うとともに、ラポータなどのとりまとめ役を務め、3GPP標準化活動に対する多大な貢献を行っていることが認められ、奨励賞を受賞しました。

武田氏は、3GPP標準化において、LTE/LTE-AdvancedのキャリアアグリゲーションやIoT関連の重要技術への提案、5G技術検討のラポータとして5G無線アクセス技術仕様の策定への貢献など、LTEから5Gまで多岐にわたる寄与を行った貢献が認められ、奨励賞を受賞しました。

大槻氏は、国際通信規制のエキスパートとして、継続的な情報収集と適切な情報分析により、ITUなどの料金・通信政策の国際標準化活動に大きく貢献しました。特にWTSA (The World Telecommunication Standardization Assembly)*3-16においてはドラフティング議長として決議の作成を主導するなど多大な功績を残したことが認められ、奨励賞を受賞しました。

*1 ラポータ：Work Itemのような検討対象項目に対して、進捗の管理、議論のとりまとめ、議論結果をキャプチャしたテクニカルレポートのエディタなどを務める3GPPの役職。

*2 ATM：セルと呼ばれる固定長のフレームを逐次転送する通信方式。

*3 WTSA：世界電気通信標準化総会。ITUにおいて電気通信の標準化を担当しているITU-Tの最高意思決定機関。